
夢の中に行こう

はるみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の中に行こう

【Nコード】

N4011G

【作者名】

はるみ

【あらすじ】

夢の中であつた彼女は優しかった。僕は夢の中から出たくなくて布団を被って長い長い夢をみるために目を瞑った。長い長い夢の中に行くために

僕が彼女に出逢ったのは、たぶん夢の中だったんだ。

丸い顔に丸い目をした彼女と過ごしたのは、きっと夢の中だったんだ。

僕が苦しくて息も出来なくてもがいていたことは、誰も気づいていなかった。

だから、僕は誰にも知られないようにこの苦しみから逃げよつと、僕は長い長い眠りについた。

眠りについた僕の夢の中に彼女は現れた。

「友だちだね」。

彼女はそう言って僕が差し出した左手を右手でつかんだ。

「友だちだよ」。

僕の左手は彼女の右手に絡んだ。

僕の夢は彼女の夢の中に入り、僕は彼女とキスをした。

「大好きなんだもん」。

彼女は笑った。

「大好きだよ」。

僕は照れた。

僕は夢からは覚めても苦しみは消えなかった。

夢の中の彼女は優しかった。

僕はもう一度夢の中で彼女に逢いたくて、布団を被って目をつぶった。

長い長い夢をみるために。

夢の中に暮らすために。

彼女が疲れて眠り夢をみたら、僕は彼女の夢の中に入っていく。

「これは夢だよ」。

僕は眠っている彼女の頬にキスをする。

「夢なのね」。

きっと彼女は笑うだろう。

僕は彼女の左手をにぎって横に眠ろう。

きっと二人が見上げる空には金星も火星も、そして月も見えるだろう。

「眠いね」。

彼女が大きな欠伸をして目を瞑ったら、僕はにぎっていた右手を離し彼女の頭の下に入れよう。

彼女が安心して眠れるように。

そして僕の目が覚めて苦しい場所に戻らなくていいように

夢の中に行こう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4011g/>

夢の中に行こう

2010年10月22日10時15分発行